

2021年度 京都三大学教養教育共同化科目 担当者会議 —オンライン授業の活かし方と可能性を探る—

オンライン講義に対する受講生 の声（本年前期分）

- 京都三大学教養教育研究・推進機構 教育IRセンター
- 京都工芸繊維大学 物理学科目（電気電子工学系）

萩原 亮

本日の流れ（大まかなタイムスケジュール）

○開会のことば（川勝 運営委員長）

○教育IRセンターからの報告（当報告）

18:15～

○児玉 英明（「現代社会に学ぶ問う力・書く力」他 ご担当）

『学生交流からみた教養教育カリキュラム —リベラルアーツ・ゼミナールの経験から—』

18:25～

○石田 昭人（「製品の機能から科学を学ぶ」ご担当）

『「モノ」に関わるゼミナールにおけるオンライン授業の難しさと克服策』

18:35～

○播磨 弘（「レーザで測る、創る、楽しむ」ご担当）

『オンライン授業から学べたこと』

18:45～19:30

総合意見交換・全体討論

三大学共同化教養教育の経緯と 京都三大学教養教育研究・推進機構、教育IRセンター などについて

- ・ ‘三大学連携協議-教養教育共同化の考え方(中間まとめ)’ (2005)
- ・ 実現に向けての協議・準備 [場所、カリキュラム, 分担体制, 資金], (2007～)
- ・ 文部科学省大学間連携共同教育推進事業に採択される (2012)
- ・ ‘京都三大学教養教育研究・推進機構’ 発足 (2012-10)
- ・ 教養教育共同化施設の着工 (2012), 京セラ㈱から京都府への寄付金[⇒稲盛記念会館] (2013)
- ・ 教養教育共同化授業スタート (2014)
- ・ (教育IRセンターへの萩原参加)(2017), (同年度末文科省助成期間終了)
- ・ 現運営委員長(川勝先生)の体制スタート (2020)

三大学学長会議

京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会

[担当副学長 + 両センター委員の教員 + 委員長指名による者]

カリキュラム策定 その他の審議・議論

京都三大学教養教育研究・推進機構

リベラル・アーツセンター

-教育内容・方法に関する実践的活動-

- 岡本 隆司 (府立大)
- 小野 勝彦 (医科大)
- 朝田 衛 (工繊大)

教育IRセンター

-教育の質に関する情報収集・整理-

- 萩原 亮 (工繊大)
- 長崎 生光 (医科大)
- 秦 正樹 (府立大)

(機構)事務局

各大学 学務,教務

実施アンケートについて

【(共同化科目専用) 機構 授業アンケート】

- ✓ 共同化科目補足持から継続されてきたが(2014～2019)、昨年(やむなく)休止
- ✓ 従前は紙配布・回収方式であったが、Web方式導入が望まれていた
- ✓ (コロナ禍のため)各大学で、教育のオンライン環境が常態となる
- ✓ 2020, 2021年度、共同化科目は全面オンラインで実施されることになった
- 各大学のポータルサイト等からアクセスするWeb方式採用(移行の好機)
- オンライン講義に対する学生の意見を汲み上げ、調査する、統一的窓口になることも期待できる.
- ◎ 内容は、(選択肢細目には手をつけずに)自由記述部分を追加・改訂する形とした.

【教員アンケート】

—教員サイドからの、意見、要望、情報を募る—

- 例年どおり、年度末(2月)に、e-メール添付による投稿方式によって実施する予定

【1年次生アンケート】

—科目の構成と種類、クラス分け方式、施設、交通 などについて、共同化科目全般に対する、意見、要望、提案などを汲み上げる—

- ✓ 学年末1～2月に実施し、結果を分析して「報告書」で報告してきた.
- 一定の役割りを果たしたものとして、(一旦)終了の方向.

京都三大学教養教育研究・推進機構「授業アンケート（2021）」									
このアンケートは、京都三大学教養教育共同化科目を受講する皆さんの意見・感想を今後の科目のあり方や実施方法の改善に活かすために行うもので、成績評価には一切関係しませんので、率直に答えてください。なお、集計結果の活用の際には、個人情報保護の観点から細心の注意を払います。									
科目名		※該当する番号ひとつに○をしてください。							
I あなたの所属は、次のうちのどれですか。									
京都府立大学		(1. 文学部, 2. 公共政策学部, 3. 生命環境学部)							
京都工芸繊維大学		(4. 応用生物学域、物質・材料科学域、生命物質科学域, 5. 設計工学域, 6. デザイン科学域、造形科学域, 7. その他)							
京都府立医科大学		(8. 医学科, 9. 看護学科)							
		10. その他 ()							

II 学年をお答えください。			
1. 1回生 2. 2回生 3. 3回生 4. 4回生 5. その他			
III この科目の出席状況をお答えください。			
4. ほぼ全て出席した（12回以上） 3. かなり出席した（9～11回）			
2. あまり出席しなかった（5～8回） 1. ほとんど出席しなかった（4回以下）			
IV この科目について、1回あたり平均してどのくらいの授業時間外学習（予習・ト作成等）をしていますか。			
4. 120分以上 3. 60分以上 2. 30分以上 1. 30分未満			

V	この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。 次の各項目に5段階で答えてください。				5 強く 思う	4 やや 思う	3 いも 言え らな と	2 いう あま わり なそ	1 全 わく な いう
	✓	(1) この科目や関連する分野特有の視点や手法を学んだ			5	4	3	2	1
	✓	(2) この科目や関連する分野の基礎的知識を修得した			5	4	3	2	1
	✓	(3) 世界の人々の多様な生き方に触れた			5	4	3	2	1
	✓	(4) 自らの生き方を考え、高い倫理観を培った			5	4	3	2	1
	✓	(5) 現代社会が抱える問題への関心が高まった			5	4	3	2	1
	✓	(6) 文献・資料などを検索し、読解する力が高まった			5	4	3	2	1
	✓	(7) レポートを書く力が高まった			5	4	3	2	1
	✓	(8) 論理的に思考する力が高まった			5	4	3	2	1
	✓	(9) 受講生や教員との議論を経験できた			5	4	3	2	1
	✓	(10) 自大学では学べない領域を学んだという実感があった			5	4	3	2	1
	✓	(11) 教員との双方向のやりとりがあり、授業に参加しているという実感があった			5	4	3	2	1
	✓	(12) 課題や小テストなどのため、講義時間外でこの科目に充てる時間が多かった			5	4	3	2	1
	✓	(13) 成績評価の方法や基準が明らかにされていた			5	4	3	2	1
	✓	(14) 授業内容に触発されて、関連分野をより深く学びたいと思った			5	4	3	2	1

VI 以下の I と II に関するご意見をお寄せください。（回答は任意です）				
I 今回実施されたオンラインの授業の形式は有効に機能したと思いますか。関する意見や、今後に向けての提案などを、自由に記入してください。				
II この科目の内容について、以上までの回答に含まれない意見などがあれば、自由に記入してください。				
質問は以上です。ご協力ありがとうございました。				

2021前期科目開講科目(全44科目)の履修者を対象に実施

- ◇ 通常講義: 34科目
- ◇ 集中講義(ゼミを除く): 3科目
- ◇ リベラルアーツゼミナール: 7科目

- 工芸繊維大学提供: 16科目
- 府立大学提供: 14科目
- 府立医科大学提供: 6科目
- 三大学教養教育研究・推進 機構 提供: 8科目

結果

全履修者数	回答を提出した者	回答を提出した者の割合
5,125人	2,319人	45.2%
		(各科目毎 30～70%程度)

整理の方針:

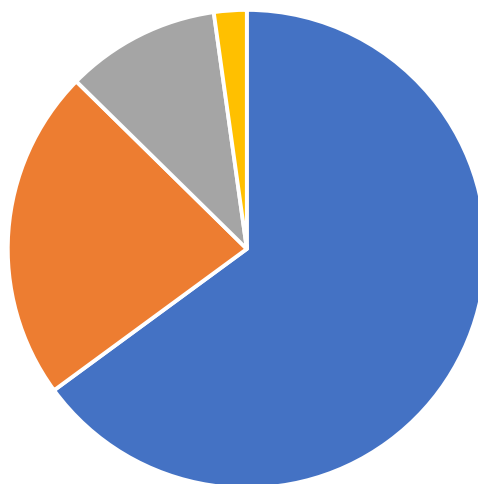
個々の授業内容に関わることを飛ばしながら、各自由記述の文章を読み解き、類型化し得る主旨を要素として抽出する。その要素について、分布等を調べる。

VIの自由記述の回答について

I. 前半:

「オンライン授業の形式は有効に機能したと思いますか？」に対して

	機能したと思う	どちらとも言えない	機能したとは思わない	言及せず	計
回答数	411	14	66	142	633
割合	64.9%	2.2%	10.4%	22.4%	100%

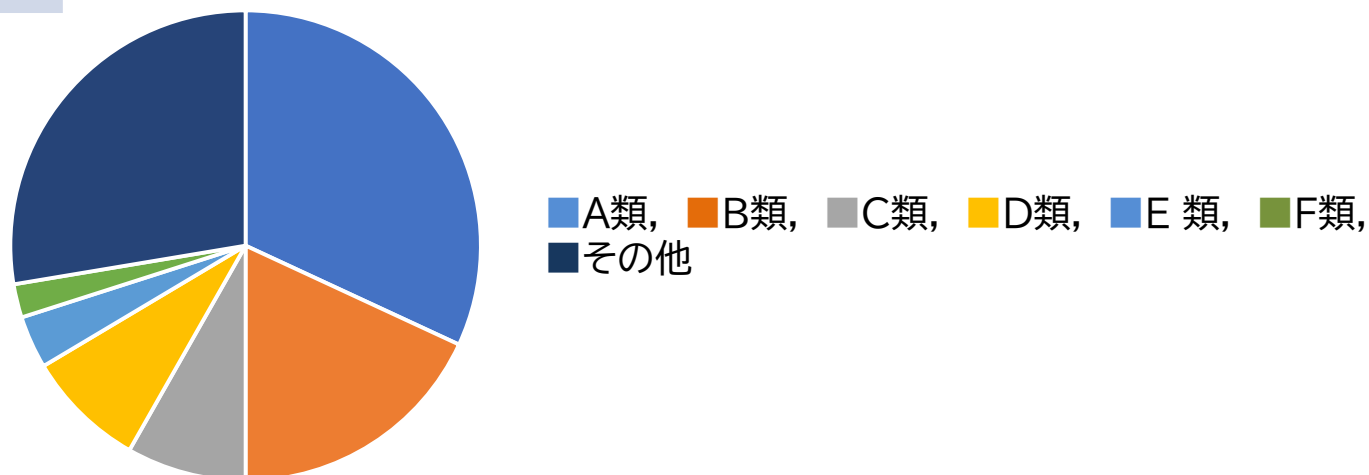


■機能したと思う, ■どちらとも言えない, ■思わない,
■言及せず

I. 後半:

「関する意見や、今後に向けての提案などを自由に」に対する反応

意見要素類型	件数	%	(類型できるものについては)意見の主旨
A類	97	32	自分の都合に合う時間・場所で学習できることが良かった。
B類	55	18	繰り返し視聴などができて、確認や復習がしやすい。 (特に、オンデマンドの動画配信が好評)
C類	25	8	オンラインでは授業を受けている感覚がもてない。対面の方が集中できる。
D類	25	8	他の学生との議論、意見交換、その他交流ができない。
E類	11	4	新型コロナウイルス感染症対策として有効であった。
F類	7	2	オンラインでは、質問しにくい。
その他	84	28	
計	304		



I. 後半:のその他の意見

(一部は、II 中の記述)(内容を整理するため、原文から変更している)

	〔やや批判的〕
	大人数クラスの授業では、対面でもコミュニケーションを図るのは難しいので、オンラインでも(そうでなくても)大差ない。
	オンライン・オンデマンドで提供される教材では、どうにも頭に入らなかった。やはり、一方的に喋られるだけの授業は身も心もしんどく感じる。
	サボろうと思えばサボれる仕組みであることが、(一部の学生に対して)問題なので、対面化を検討した方がいい。
	先生によってオンデマンドだったり、Zoomだったり、Webexだったり、様々だったので、複数のアプリを使わなければならず、大変だった。
	集中講義で、長時間連続でイヤホンをつけたために、耳が痛くなった。(集中講義の)期間をもう少し広げてほしい。
	他の人がどのように考えているのかを、知ることができなくなったのが残念だ。
	〔大いに肯定的〕
	先生の顔がわかる形の授業だったので、実際に授業を体験しているような気持ちになり、集中できた。
	画面を共有してのグループディスカッションなど、オンライン授業ならではのメリットが多々あった。今後もこの形態を維持すべきだ。
	カメラonで、コミュニケーションが上手くいった。
	〔提案的〕
	他の学生との意見交換できなかったが、オンライン・オンデマンドであっても、アンケートフォームなどを通して聞いた他の受講者の意見を、次回の講義で紹介する方式をとればよい。それが理解の助けにもなると思う。
	三大学の授業が集中するため回線が混み合うのではないかと。曜日を変えたり、集中講義の方式にする講義もあった方がいい。

ショートまとめ(風)

- オンライン方式を肯定的にとる者が多数を占めた。
(否定的な見方は1割程度.)
- 時間が制約されないオンデマンドのメリットあげる者が多いが、一方で、臨場感やリアルタイムの対話を求める声も少なくない。
⇒ハイブリッド(含交番型)の有効性・必要性が認識される
- 自らの理解の進みや、為した努力に基づく達成感に触れるような言葉は、なか見られない。